

Ⅱ 完全学校週5日制に関する各種アンケート調査結果の分析と課題の整理

2. 調査結果のまとめ

ここでは、完全学校週5日制に関する意識・実態調査結果から、今後取り組んでいかなければならない課題について整理していくこととする。

(1) 完全学校週5日制に対する保護者の意識について

① 5日制の趣旨の理解・促進

図12から、小学校の保護者の40.2%、中学校の保護者の44.2%が児童生徒の休日に休みをとれない現状が浮き彫りになった。また、平成14年4月に実施された栃木県PTA連合会による「教育改革アンケート調査」では、「大人のいない土曜日に何をさせたいか」の問に、小・中学校の保護者の57.2%が「子どもだけで家においておく」と回答している。また、「各種イベントに参加させる」「公共施設や諸団体の活動に参加させる」などの普段ではできない体験活動等に参加させると回答した保護者は、9.9%であった。

また、平成14年6月に実施された壬生町教育委員会による「学校完全5日制に関するアンケート調査」では、「講座やイベントに参加させない理由」として、「親が忙しい」「子どもが忙しい」「家族で十分」が全体の49.1%と保護者として積極的に子どもたちを様々な体験の場に送り出そうとする意識が薄いことが分かる。

保護者が児童生徒の休日に十分休めないものの、子どもたちが豊かな体験活動などを通して休日を有効に過ごし、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性を身につけられるよう、5日制について保護者の理解促進を図る必要がある。

② 生活体験を通じた家庭の教育力の向上

図13では、「保護者がこれから休日を子どもたちにどのように過ごさせたいですか」の問に、「家での手伝い」「自主的な学習・課題研究」「部活動・スポーツ少年団の活動への参加」等が上位に挙げられている。特に、小・中学校での第1位は「家での手伝い」であり、家庭内の役割分担についての期待が大きいたうかがえる。家庭教育の重要性が叫ばれている今日、家事手伝いなどの生活体験を通して、家庭の教育力をさらに高めていくことが大切である。

(2) 地域で子どもを育てる住民の意識について

③ 地域社会が果たす役割についての共通理解と実践

平成14年3月に実施された文部科学省「地域の教育力の充実に向けた実態・意識調査」によると、「毎日が楽しいですか」の問に「とても楽しい」と回答した子どもの中で、地域とのふれあいが多い子が49%、少ない子が25%と違いが表れている。また、「自分の得意なことを地域の人たちと一緒にすることに関心がありますか」の問に「大いに関心がある」と回答した子どもの中で、ふれあいが多い子が27%、少ない子が10%と同様であった。このことから、地域の人たちとふれあいが多い子ほど地域活動へ関心を示し、日常生活への充足感が味わえている。そこで、これからの日本を支える人材を育成する視点に立って、地域の様々な方々の協力を得ながら地域住民が主体的に関わるような取り組みを行い、地域社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを一層図っていく必要がある。

（３）子どもたちを取り巻く生活環境について

④ 自由にかつ安全に遊べる場の確保

図４より、今年度から実施された５日制に伴い、子どもたちが休日を家庭や地域で有効に過ごすために子どもたちを取り巻く様々な環境を整備する必要性について、「必要である」「どちらかという必要である」と回答した割合は、児童生徒６５．１％、保護者で８４．３％であった。完全学校週５日制実施後１年が経とうとしている今、５日制の趣旨がうまく機能していくために、様々な視点からの環境の整備が必要とされている。

図５では、環境整備が必要な具体的な内容として、「公園や広場など、子どもたちが自由に遊べる場所を増やして欲しい」という内容の回答が、児童生徒で３７．１％、保護者２８．３％であった。豊かな体験とは、イベントや行事に参加することだけでなく、自由な遊びの場から学ぶものも多い。友達同士、親子、地域の人たちと創意工夫をしながら、自由に遊べる場を数多く提供していく必要がある。

⑤ 多様な活動に参加できるための配慮

図２では、「５日制が実施されてから、お子さんはどのように過ごされることが多いですか」の問に「部活動・スポーツ少年団への参加」が一番多く、「遊び・趣味」「テレビ・ゲーム」「休養・ゆっくり過ごす」と続いている。さらに、図１１では、参加しなかった理由として小学生・中学生とも、「活動に関心がなかった」「時間的余裕がなかった」「参加したい体験活動がなかった」の３つがほとんどを占めている。５日制によって家庭や地域で過ごす時間が増えた現在、多くの子どもたちが自分の興味や関心のあることに対し存分に活動できるよう、プログラムの開発や自由に活動できる施設・場の改善を図っていく必要がある。また、部活動・スポーツ少年団へ参加している子どもたちに対しても、所属している活動以外の活動に参加できるよう配慮していくことも必要である。

（４）完全学校週５日制対応プログラムについて

⑥ 活動プログラムの工夫・改善

図３では、「これからの休日をどのように過ごしていきたいですか」の問に、各校種とも「家での休養」が上位を占めている。図６に示したように県内各市町村では、「スポーツ活動」をはじめ、「文化活動」「ものづくり・工作体験」「自然体験活動」等様々な事業を数多く提供しているところである。その中で、図９で示したように小学５年生では、「野球やサッカーなどのスポーツ活動（３８％）」「山や川、公園などでの自然活動や体験活動（１９．６％）」「おもちゃ作りなどの工作体験活動（１４．１％）」、中学生では「地域で行われるボランティア活動（４１．８％）」「住んでいる地域の伝統文化や行事を学ぶ活動（２７．０％）」「野球やサッカーなどのスポーツ活動（２３．０％）」などに興味を示している。その反面、図８のように「１度も参加したことがない」と回答した児童生徒が、小学５年生で５７．４％、中学２年生で７５．７％いることも現実である。

そこで、子どもたちのニーズを的確に把握し、それぞれの興味・関心にあったプログラムを開発・提供していくことが大切である。また、保護者が子どもに参加させる価値を見出し、進んで参加を勧めてくれるような広報・啓発が必要である。

⑦ 必要とされる活動の場やプログラム等の情報提供

図10では、図8で「1回以上体験活動に参加したことがある」と回答した児童生徒が「その内容や時間・場所などの情報をどこから入手したか」の問に対し、「学校の掲示板や先生（小学5年生35%、中学2年生47%）」が圧倒的に多く、次いで「家族」「友達」と続いている。今後とも学校を通じた情報提供を進めていくとともに、子どもたちが必要な情報を手軽に入手できる工夫・改善を図っていくことが大切である。

⑧ 休日に保護者がいない子どもたちや障害のある子どもたちへの体験活動の提供

図6「土曜日における子ども・家族向け事業の実施状況」では、「週末に保護者がいない子どもたちに配慮した事業」を実施している市町村は全市町村の10.2%に当たる5市町村であった。また、全国的には文部科学省が平成14年8～9月に実施した「完全学校週5日制の実施に伴う事業の実施・子どもたちの参加状況に関する調査」によると、「週末に保護者がいない子どもたちに配慮した事業」を実施している団体は、8.4%、「障害のある子どもたちに配慮した事業」を実施しているのは、3.6%であった。このことから、幼児や小学生で休日に保護者がいない子どもや障害のある子ども等が積極的に様々な体験活動に参加できるようプログラム開発や活動の場の提供を一層進めていく必要がある。